

Medical Communication Community

Vision

患者さんに適切な医薬品情報を迅速に届けるためにあるべき姿を産官学で議論を行い、顕在化されている又は顕在化されていない課題を特定し、協力して改善提案を行う。

Scope

適正使用推進のための情報、患者さんの安全管理のため情報、サイエンス・エビデンスに基づく医療関係者へ提供すべき情報

For Patient

課題の事例：

- 医薬品情報の連続性と計画性をどう考えるか
- 安全性の共通メッセージをどのように伝達すべきか
- CTDから市販後資材のメッセージの整合性はどのようにとっていくべきか
- Publicationのミスコンダクト（倫理）及び計画の課題は何か



第3回メディカル・コミュニケーションワークショップ「添付文書、RMP、IF、審査報告書、CTD：さらなる価値を創造するために」2020年12月1日開催予定

- 患者さんが最適な治療を得るためには医薬品が適切に使用されるために、規制当局や製薬企業から発信された医薬品情報は、種々の情報媒体を介して、立場により様々な解釈で受け取られており、一貫したメッセージとして伝わりづらい側面があります。
- 今回のワークショップでは、これらの資材の目的、作成者の視点や作成ルール、特に文書間の連携や関係性を学び、更にケーススタディを通して理解を深めます。
- また、医薬品情報を使用される医療関係者、規制当局及び製薬企業などの様々な立場で、実際の医療現場、承認審査や申請資料作成において医薬品情報がどのような目的でどのように使われているのかを相互に確認し、参加者が抱える様々な課題の解決策を考える貴重な機会にしたいと考えております。
- 詳細及びお申し込みは以下をごらんください。

11月9日（月） 17:15～19:00チャットセッション「患者さんのための医薬品情報提供のために私たちができること」にもお越しく下さい！

コミュニティメンバー

MSD株式会社	津森 桂子
日本イーライリリー株式会社	小嶋 祐子
国立研究所法人理化学研究所	安倍 理加
ファイザー株式会社	荻原 香奈恵
アステラス製薬株式会社	黒崎 英志
グラクソ・スミスクライン株式会社	長濱 敬樹



メディカル・コミュニケーションコミュニティでは、規制当局、アカデミア及び製薬企業（ファーマコビジランス、添付文書、メディカルインフォメーション、メディカルライティングなど）の医薬品情報に関わる幅広いメンバーと新たな活動ができればと考えております。ご興味のある方はDIA事務局までご連絡ください。